

フードバンク活動… 人とお金が足りません

毎日何本もかかってくる支援を必要とする方々からの電話。

「3日間何も食べていない…」「明日子どもに食べさせる物が無い…」
食品や光熱費の値上げが続く中、新たな食料支援の申込みが激増し、今年も、6月までの半年で、昨年度の1年分に迫る勢いです。そして、一度の支援で終わる事は少なく、継続的な支援が必要なケースが多いのが現状です。

物価の高騰、非正規雇用の増加。思わぬ病気や事故…様々な事情を抱え、最後の砦であるフードバンクを探して、連絡してこられます。

フードバンク活動を継続するための3つのお願い！



①ボランティア募集

食品の引取り・配布・精米・袋詰め・箱詰め、入荷データの入力・在庫管理などなど、日々の細かい活動を、できることだけ少しでも手伝っていただける方を募集しています！



②寄付金・賛助会員募集

冷蔵庫などの電気代、食品の引取りや配布のための交通費、食品を送るための送料など、支援が増えれば増えるほど、経費が膨らんでいきます。個人の皆様、企業の皆様、ぜひ活動への寄付をお願いします。※振込みされる場合はメール、電話、FAXなどでご連絡ください(会費か寄付金か、また住所やお名前の特定ができないため)



③食品の寄付募集

困っている家庭に配布できる食品(日用品も)の寄付をお願いします。

岐阜県 『女性のつながりサポート支援』事業

コロナ禍により様々な影響を受け、不安を抱える女性に寄り添った支援を、県の委託を受けた『ぎふ、NPOセンター』から実施団体として事業を受託しています。

訪問支援で、食料品はもちろん、生理用品をお渡ししたり、相談窓口や居場所を紹介することができます。3年前から継続しているので、サポーターや利用者にも理解が進んできました。まだ、この支援をご存じない女性もいると思います。ぜひ、お近くの女性で困っている方がおられたら、情報をお伝え下さい。フードバンクぎふにもチラシやリーフレットがあります。



岐阜県 『孤独孤立対策官民連携』事業

コロナの影響もあり、様々な世代の孤独や孤立が社会的な問題になっています。この事業も県の委託を受けた『ぎふ、NPOセンター』からの再委託の事業です。県内で20団体ほどが、様々な分野で孤独孤立対策の事業を行っています。

当団体は、昨年に引き続き、『フードバンク活動を通じての孤独・孤立対策 事業』を実施します。家にこもりがちで外に出ることを困難に感じている方に、大垣本部や笠松支部、各地域の活動場所で、食品配布などに関わる軽作業に協力いただく事で、謝礼をお支払いできる形の事業です。社会とつながる初めの一歩になるといえずし、作業を手伝っていただけることで、フードバンク活動の助けにもなります。

昨年度、来てくださった方には、野菜の袋詰め、お米の選別作業、個配のための食品仕分け、食品の運搬などの活動をしていただきました。定期的に活動に参加されることで、活力がわいてきたり、床屋に行く気になった、などうれしい変化がありました。

また、今年度は、人とつながるためのひとつのツールである、スマホやラインの使い方などを学びながらの交流会も計画します。



▲食品の仕分け作業

【編集後記】 毎日のかかってくる、食料支援依頼の電話。「〇日食べてないから、食品を送ってほしい！」という遠方からのメールも。現状をお聞きすると、とても「今回で終わりです。」とは言えず、地域サポーターの皆さんと連絡をとりながら、日々支援に走り回っています。広がる地域の貧困、深刻な事態です。